

【学校教育目標】 夢に向かって 自ら学ぶ 豊かで たくましい生徒

黒西中だより



TEL 048-768-5454

心のホット相談室 TEL 048-764-1110

<http://kuronishichu.style.coocan.jp/>



第 4 号

令和7年7月1日

生徒数		
1年	68名	2学級
2年	85名	3学級
3年	83名	3学級
4組	3名	1学級
5組	3名	1学級
合計	242名	10学級

「バントへの恐怖心を乗り越えて」

さわやかな五月の風から湿った六月の風に、そして蒸し暑さを運ぶ七月の風へと変わり本格的な夏の訪れを感じさせる季節となりました。生徒達は生徒総会、修学旅行、職場体験、学校総合体育大会等、様々な行事をとおしてたくましく成長しています。夏休みまで残り3週間となりましたが、意欲的に学校生活を送っています。

犠牲バントはヒットを打つより簡単にできるように見えますが実際はそう簡単ではありません。広島の大谷翔平選手は2020年にプロ野球ドラフト会議育成第1位で広島に入団しました。二軍で実績を残すと2022年の1月に支配選手登録され背番号も121から99に変わりました。今シーズンの開幕戦ではスターティングメンバーに名を連ね、開幕戦はノーヒットでしたが2試合目には3安打を打ち、4月2日のヤクルト戦を迎えるまで打率2割5分と活躍していました。この日の試合は1回に1点先制された広島が2回に2点を取って逆転し、さらに2点を取って3点差としましたが8回にヤクルトが3点を取って追いつき4対4のまま延長戦となりました。10回表広島の攻撃。ノーアウト一塁で二塁選手に打順が回ってきました。サインは送りバント。ここで送りバントを成功させたくないヤクルトと、ワンアウトを取られてもランナーを二塁に進めたい広島のせめぎ合いがあります。ヤクルトバッテリーは当然バントをしにくい球種、コースを選択します。選択した球種は外に逃げていくボールではなく、インコース高めめの直球。実際に投げられたボールはインコース高めめのやや身体に近いボール気味のストレート。バントの構えをしている二塁選手の顔面に向かってくるボールです。

私は高校野球をやっていましたが、正直、バントは大の苦手でした。なぜなら硬球のスピードボールに恐怖心が生じるからです。身体から遠くのボール、つまり外角に外れていくようなボールにはバットと一緒に身体毎飛びついて捨て身でバントにいけるのですが、身体に向かってくるボール、特に顔面付近に向かってくるインコース高めめのストレートには恐怖心がわきます。監督からは、「目線に合わせてバットを構えれば絶対に顔面に当たることはない。ファウルになっても顔をよけて飛んでいく。」と御指導を受けていましたが、どうしても恐怖心が出ます。(練習試合で外角の外れたボールに飛びついて一度だけスクイズを決めた記憶はありますが、度重なるバント失敗に監督は私にバントのサインは出さなくなった記憶です。)守備する側として監督はバッテリーにバントを防ぐためにヤクルトバッテリーのように「インコースの高めへのストレートを効果的に選択すること。」を指導されていたことも記憶に残っています。二塁選手はそのボールをバントしにいきましたが、ボールはバットにかすりファウルチップとなって二塁選手の顔面に当たりました。そしてそのまま負傷退場となり、結果は前番8本損傷という大けがで、試合も広島はサヨナラ負けを喫してしまいました。大けがを負った二塁選手ですが、不屈の精神でなんと、翌日も長い黒マスクをつけて試合に先発出場しノーヒットではありましたがフル出場しています。

けがをした日から3日後の4月5日のDeNA戦。6対2で勝っていた広島は最終回に5点を取られて逆転され1点差で負けている9回裏の広島の攻撃。ノーアウト一・二塁のチャンスで二塁選手に打順が回ってきました。広島は当然、送りバントの場面。私はけがをしていて完治しておらず、マスクも着けている二塁選手に、新井監督はバントのサインを出すのをためらってもおかしくない場面であったと思います。代打を出してバントをさせるということもできたかと思いますが、新井監督はそのまま二塁選手で送りバントというプロの決断をしました。二塁選手は送りバントの構えです。相手バッテリーもバントしづらいボールを選択して投げる場面です。ピッチャーが投げたボールは、やはりインコース高めめのストレート。二塁選手の顔面に向かってくるボールです。二塁選手はそのボールをしっかりと見て見事にバットに当て、ボールを一塁戦に転がしバント成功。ワンアウト二・三塁とチャンスは広がりました。その後、矢野選手のセカンドゴロで三塁ランナーが生還。同点に追いついた広島は延長11回の裏代打田村選手のプロ入り初ホームランがサヨナラホームランとなり8対7で広島が勝ったという試合です。このホームランを呼び込んだのは、二塁選手の勇気ある犠牲バントであったと思います。二塁選手はもちろんのこと、バントのサインを出した新井監督、攻めた相手バッテリー(実際のボールはけがをした時のボールより内側のストライクのボールでしたが)にもいろいろな気持ちが交錯しプレッシャーのかかったことでしょう。二塁選手、新井監督、相手バッテリー、すべての勇気あるプロとしての行動に心から拍

手を送ります。二俣選手はその後にも試合に出場し4月15日にはホームランを放ちますが、この原稿を書いている時点で二軍で調整中です。また一軍に上がりファイトあふれるプレーを見せてくれたらと思います。自分は高校時代、ボールへの恐怖心でバントができずチームに申し訳なかったと思うと同時に、プロの選手は「いろいろな意味で本当にすごいなあ。」と改めて実感しました。

保護者の皆様、地域の皆様、今後も、本校の教育活動に変わらぬご理解とご支援、ご協力を賜りますようお願いいたします。